

2022 事業年度 マザック財団 研究助成・優秀論文表彰・国際会議助成について

公益財団法人 マザック財団(理事長:棚橋祐治、住所:愛知県丹羽郡大口町、TEL:0587-95-6874)は、2022 事業年度(2022 年 4 月～2023 年 3 月)の研究助成・優秀論文表彰・国際会議助成の対象が決定したことを発表し、5 月 19 日に表彰式を行いました。

1. 2022 事業年度 研究助成/優秀論文表彰/国際会議助成の内容

2022年9月1日～11月30日の募集期間に大学や研究機関などからの応募を受け、審査を経て研究助成18件、優秀論文表彰16件、国際会議助成3件の計37件を選定しました。

1) 研究助成

・申請総数 35 件の中から 18 件を研究助成対象に選定しました。

＜代表例:名古屋工業大学 准教授 前川 覚(マエガワ サトル)＞

・研究テーマ

『表面の粗さやうねりのばらつきを考慮した不確かさ評価付トライボ CAE モデルの開発』

・内容

トライボ CAE 技術(摩擦係数の数値予測技術)と ML 技術(機械学習)を融合させて、表面の粗さやうねりのばらつきがすべり案内面などの摩擦特性に及ぼす影響を定量化する「不確かさ評価付きトライボ CAE モデル」を開発する。これまで経験的かつ定性的な基準により定められていた摺動面の公差指定に対して、理論的かつ定量的な指標を示すことが可能となる。この先、デジタルツインの一環として、加工時の振動減衰シミュレーションや軌跡誤差シミュレーションを行う際に有用になる。

2) 優秀論文表彰

・応募総数 27 件の中から 16 件を優秀論文表彰に選定しました。

＜代表例:広島大学 大学院生 大西 翔太(オオニシ ショウタ)＞

・論文のテーマ

『自己較正法を用いた直進軸・回転軸の静的誤差の長期的変化のモニタリング』

・内容

5 軸工作機械の運動誤差の要因の一つは旋回軸の組み立て誤差である。

本論文では、タッチプローブと形状精度が較正されていない円筒状ワークを用いて工作機械の幾何誤差を同定する新たな手法を提案している。形状精度が較正されたワークを準備する必要がないところに有用性があり、この手法を用いて測定した精度の経年変化や温度による変化の事例を報告している。

3) 国際会議助成

・7 件の申請の中から、3 件を国際会議助成対象に選定しました。

2. マザック財団の概要と活動状況

マザック財団は、ヤマザキマザック株式会社の基金拠出を受けて、1981年8月に設立された研究助成財団です。設立時の名称は「高度生産システム振興財団」でしたが、その後1998年に現在の名称である「マザック財団」に改称されました。また、2012年4月1日には公益財団法人への移行が認定されております。

1) 設立

1981年8月25日

2) 目的

機械の生産において工作機械を中心とした高度生産システムに係わる研究開発、利用等に関する研究助成及び援助活動を行うとともに、国際的技術交流を通じて、機械の生産技術の高度化を図り、わが国及び世界の機械産業の発展に寄与することを目的としています。

3) 活動状況

2022事業年度活動実績と創設以来の活動実績累計は、以下の通りです。

<2022事業年度の活動実績>

研究助成	18件	1,300万円
優秀論文表彰	16件	220万円
国際会議助成	3件	130万円
合計	37件	1,650万円

<創設以来の活動実績累計> (2022事業年度分を含む)

研究助成	633件	4億3,335万円
優秀論文表彰	296件	3,184万円
国際会議助成	52件	5,127万円
調査研究助成	24件	4,352万円
合計	1005件	5億5,998万円

以上

お問合せ先：ヤマザキマザック株式会社 人事・総務部 広報課
TEL:0587-95-9317 www.mazak.jp